

P09a 大質量星形成領域 NGC6334V

橋本淳(東京理科大)、田村元秀、周藤浩士、石井未来、L. ABE(国立天文台)、深川美里(CALTECH)、工藤智幸、眞山聡(総研大)

NGC6334V は大質量星形成領域である NGC6334 の最も南西側に位置し、複数の赤外線源が分子雲に埋もれている領域である(距離は 1.7kpc)。この領域にはアウトフローと双極赤外星雲が見つかったが、その励起源の特定には決着がついていない。偏光観測も過去に行われているが、複数の赤外線源が密集しているため結論には至っていない。一般的に、遠方にある星形成領域の観測には高解像度が不可欠であるが、過去の NGC6334V 領域の偏光観測(Chrysostomou et al. 1994; Nakagawa et al. 1990 など)では解像度が 1'' 以上であり、撮像観測も同程度の解像度にとどまっていた。

そこで、我々は、すばる望遠鏡と赤外線カメラ CIAO を用いて H,K バンドにおける偏光観測、および、Ls, M バンドにおける撮像観測を行った。得られた解像度は K バンドでおよそ 0.3'' であった。本講演では、これらの結果で得られた本領域の高解像度画像を示し、NGC6334V の反射星雲の詳細とその励起源についての考察と議論を行う。